

05 設計基礎 A

開講年次：学部1年生第3クオーター

[担当教員]

光嶋裕介（特命准教授）

[Teaching Assistant]

藤井建人（A70）眞下健也（A70）高垣翔（A70）

■課題概要

建築をデザインする上で必要となる基礎的な造形力を獲得することを目的とし、立体造形制作（紙を素材とした立体構成作品や、スケール感覚を養う立体作品の模型・シート制作）を通じて、構成力や造形力を習得するとともに、形態や色彩感覚、素材の質感、スケール感覚、平面と立体との関係などの空間造形感覚とそれらを表現する能力を養う。また、課題を通してスタディからプレゼンテーションまでのスキルを身につける。

紙を素材とした立体構成作品制作については p.26 参照。スケール感覚を養う立体作品制作については、彫刻・マテリアルを展示するための光を利用したギャラリーの制作を行う。



講評会の様子

■課題スケジュール

内容	制作課題
ガイダンス	-
即日課題（ゲスト講師：大谷弘明先生）	紙の立体構成作品
模型制作	スケール感覚を養う 立体作品
模型制作	(彫刻・マテリアルを展示 する光のギャラリー)
模型仕上げ・シート作成	
模型仕上げ・シート作成	
講評会（全員発表）	



講評会の様子

長辻はるか「つづく」

照らしかれ方によって表情を変えろ空間を自らした。
大きな球がたくさん、から下から様子は異質で、
白以外の色も物体がないことではさらに「非日常」を加速させた。
菲・半透明な球を示すために、開口がない、東側には球を切って
貼りつけた。差し込む光が複雑に絡み合うようにたくさんの
球を使いた。題は「つづく」円と、円形には終わりがないのひつづくつながるという意味を表している。
非対称で細くするなどして奥行きを強調している。一日の終わり
を感じさせる夕方、西日に向って円形の強調され、「つづく」と
を意識させながら作った。

A-A' 断面図 / 1:50 GL:2400

平面図 / 1:50 GL:2400

西側立面図 / 1:50

長辻はるか

2022-02-17 22:54:22 800x600 800x600 800x600 800x600

設計基礎 A

即日課題『美しく高い塔、自分が考え出した塔。』

[担当教職員]

大谷弘明（客員教授／日建設計 CDO 常務執行役員、チーフデザインオフィサー）

光嶋裕介（特命准教授）

[Teaching Assistant]

藤井建人（A70）眞下健也（A70）高垣翔（A70）加藤亜海（A69）

■課題概要

みなさんが神戸大学工学部建築学科に入学されたことを喜ばしく思います。これからいいよいよ建築の専門教育をみなさんは学ぶことができます。建築とはオブジェではありません。見るものではなく使うもの、体験するものです。人間を取り巻くすべてが建築といつても過言ではありません。みなさんは今後、驚くべき未知の空間体験をたくさんしていくはずです。

今日は、みなさんと建築をつくるはどういうことなのか、一緒に考えたいと思います。考えるといつても頭で考えるではありません。手を動かしながら考えましょう。建築とはこれらの思考と試行の果実なのです。

頭の中にある塔のイメージをもとに実際の立体造形にしてみましょう。夢に出てくるような美しい塔、体験してみたい展望の空間。これを独力でつくってください。

考えながら形にし、実際に組み上げて、出来上がりをまわりと比べ、感じて、批評しあう、これらのプロセスが建築の設計には大切です。

これらの活動すべてが建築的な「体験」の事始めになります。「原体験」となります。

・日 時	10月14日（金）3、4限（13:20～16:40）
・場 所	百年記念館 六甲ホール・ホワイエ
・時間配分	各自の作業場確保 13:00～13:20 @ ホワイエ 事前説明 13:20～13:25 @ ホール 制作 13:25～15:55 @ ホワイエ 作品の移動 15:55～16:00 to ホール 講評 16:00～16:30 @ ホール 清掃 16:30～16:40
・材 料	A3ケント紙 5枚
・持ち物	定規、はさみ（カッターは不可）、テープ、ホッチキス、作品を持ち帰るための袋、床に敷くビニールシートや段ボール、マットの類、床での作業用の動きやすく汚れても平気な服装

*製作のスケールは自由ですが出来るだけ大きく高くつくりましょう。
ケント紙を余らせてはいけません。

*縮尺自由の人体をつくり、自分のつくった造形の上に置いてください。もし立体に内部を作る場合は、その中を覗けるようにしてください（疑似体験できるように）。

*出来上がった塔は、より大きく見えるように下から見上げて自ら撮影してみましょう。できれば自然光のもとで。



作品制作風景

■大谷先生コメント

去年から続く百年記念館のホワイエ空間全体を製作に使う時間であった。楽し気な皆を見ていて自分も製作に参加したいぐらいだった。この日の経験は皆さんにとって普段とは全く違った体験のひとつとなったはずだ。神戸大学の工学部建築学科に無事入学された皆さんは、これから空間や建築に直に向き合うことができる。

約80人の製作を見て、発表を聞いて、いくつか助言を申し上げたいと思う。



この課題はわざと1週間前にお題を公表して、事前準備をしてもらう時間とした。昨今、ピントレストでもインスタグラムでも、画像情報があふれ、それこそ無限の情報に取り巻かれているといつて良いだろう。美大でおこなう立体構成課題を参照するとか、もっと高尚に彫刻家の抽象彫刻を探してみた人はいただろうか。果たして若者の情報リテラシーは、この程度なのだろうか。ああもったいないと感じた。まずは真似をすることから学びは始まる。

5枚のケント紙が与えられたなら、それを余さず使い切るように。ケント紙の特性（硬さ、しなやかさ、どのくらいのアールなら曲げやすいか）、あるいは加工を減らして強度を保つ方法、「樂をして得する」ことに貪欲なひとがいてもよかったです。建築は常に重力（1G）との戦い。ヤワな構造では立たない。何人の作品が講評会途中で倒れた。

多くの人たちの中から選りすぐりのアイデアを引き出すために、競争（コンペ）は避けて通れない。今後どのような課題に直面しても、自分なりのオリジナリティを生み出すことに努めてほしい。みなさんのこれから始まる建築漬けの日々が、正直羨ましい。



大谷先生の全体講評



個々の作品の講評（上）と光嶋先生の全体講評（下）